


活動名						森の写真立て					
概要		○木の実や落ち葉等の自然物を使って、自分だけの写真立てをつくる。									
ねらい		○自由な発想で思い思いに作品づくりを行うことによって想像力を養う。 ○道具の特徴や使い方を理解し、正しく安全に取り扱う。 ○よく観察することで自然物に興味関心を抱くきっかけをつくる。									
関連教科等		生活・図画工作・理科・総合									
指導形態		①自主活動で実施、②職員は活動の説明のみ行う、③職員が指導を行う									
時期		通年		時間帯		日中		対象		幼児（親子）～	
場所		創作棟		人数		～80人／1部屋		所要時間		1.5～2時間	
準備物		施設で準備できるもの				団体・個人で準備するもの					
		土台となる木、木の実などの自然物、ニッパー、ダンボール、写真サイズの型紙、はさみ、ホットボンド、木工用ボンド、のこぎり				なし					
進め方・展開例											
内容						留意点					
活動前		○事務室で打ち合わせを行う。 ・ねらいの確認 ・人数、材料の数、活動の進め方				○職員からの指導が活動の説明のみの場合は、活動の進め方や安全面、片づけ等について十分確認する。					
活動の説明		○例となる作品を見せ動機づけをする。 ○活動の流れを説明する。 ○道具の使用方法を説明する。				○見本と同じものをつくるのではなく、自分の自由な発想でつくるように伝える。 ○創作説明用のシートを使用する。 ○特に刃物やホットボンドの使用の注意事項を伝える。					
展開		○必要であれば、自然物を野外に取りに行く。 ○土台となる木に型紙がはさめるように木の実を接着する。 ○写真をはさめるように、写真の大きさに合わせて、ダンボールに飾り付けをする。				○危険な動植物への注意を促す。 （ハゼ、ウルシ、マムシ、スズメバチ等） ○自由な発想で作るよう促す。 ○あまり重いものを接着するとバランスが取れずに倒れてしまうことを伝える。					
まとめ		○片づけをする。 ○お互いの作品を発表し合い、よさを認め合う。									
評価		○身近な木の実や落ち葉等の自然物に、おもしろさや不思議さを感じることができたか。 ○想像力をはたらかせて、思い思いの作品をつくることができたか。 ○道具の特徴を理解し、正しい使い方を習得することができたか。									
発展		○写真だけではなく、たたき染めやスケッチなどの作品を飾ってもよい。									